

どこを見ている？

園長 高地 敬

景色の良^{けしき}いところ^よに子ども^こを連れて行^つっても、景色^{けしき}を全然^{ぜんぜん}見^みないで近^{ちか}くばかり見^みているので、がっかりする^しことがない^ないでしょうか。

江戸^え末期^{どまつき}の人^{ひと}で、かなり正確^{せいかく}な日本^{にほん}地図^{ちず}を作^{つく}ったこと^{こと}で有名^{めい}な、伊能^{いのう} 忠敬^{ただたか}
(いのう ただたか)という人^{ひと}がいます。40歳代^{さいだい}で隠居^{いんきょ}して商売^{しょうばい}は息子^{むすこ}にまかせ、
長年^{ながねん}の夢^{ゆめ}を果^はたします。それは地図^{ちず}を作^{つく}ること^{こと}ではなくて、地球^{ちきゅう}の緯度^{いど}1度^どの
距離^{きょり}を正確^{せいかく}に測^{はか}ること^{こと}でした。それが分^わかれば、地球^{ちきゅう}の大き^{おお}さが分^わかります。
世界^{せかい}でいろん^{ひと}な人^{ひと}が試^{こころ}みていた^{よう}です。

伊能^{いのう} 忠敬^{ただたか}は、北海道^{ほっかいどう}までの地図^{ちず}を作^{つく}ることを口実^{こうじつ}にして幕府^{ばくふ}の許可^{きょか}を得^えたよ
うです。昼間^{ひるま}は道^{みち}の測^{そくりょう}量^{りょう}をし、夜^{よる}は天体観測^{てんたいかんそく}して正確^{せいかく}な位置^{いち}を測定^{そくてい}し、地図^{ちず}を
補正^{ほせい}します。今^{いま}のカーナビ^{おな}と同じこと^{こと}をすべて手計算^{てけいさん}でやっていた^{のだ}と思^{おも}い
ます。

測^{そくりょう}量^{りょう}や天体観測^{てんたいかんそく}の機材^{きざい}を毎日^{まいにち}運^{はこ}び、莫大^{ばくだい}な作業^{さぎょう}をこな^{こな}します。そのためには
食事^{しょくじ}や宿舎^{しゅくしゃ}の手配^{てはい}をする人^{ひと}、機材^{きざい}を荷造^{にづく}りして馬^{うま}などで運^{はこ}ぶ人^{ひと}、測^{そくりょう}量^{りょう}と天体
観測^{かんそく}の助手^{じょしゅ}など、何人^{なんにん}くらいだった^でしょうか。目的^{もくてき}は一つ^{ひと}で同じ道^{おな}を歩^{みち}いて
いる^{ある}けど、みんな別々^{べつべつ}なことを考^{かんが}え、いろん^{ほうこう}な方向^みを見^みている。

家族^{かぞく}も同^{おな}じこと^しかも知^しれませ^んん。だいたい一^{いっしょ}緒^{しょ}に在^ある^{けれ}ども、みんな自分^{じぶん}
だけ^{うご}の動^{かた}き方^{かた}をしていま^す。そして子^こどもは遠^{とお}く^{ゆうだい}の雄大^{けしき}な景色^{あしもと}よりも、足元^{あしもと}
の落^おち葉^はの色合^{いろあ}いに感^か動^{んどう}し、長^{なが}く生^いきてい^あれば当^{まえ}たり前^{ふんがい}のこと^{こと}に憤^{ふん}慨^{がい}したりしま
す。子^こどもたち^{おとな}は、大人^{うしな}が失^もってしま^もったもの^{もの}をた^{おも}くさん持^もっている^{のだ}と思^{おも}い
いま^す。

「今^{いま}、何^{なに}を見^みたの？ 何^{なに}に感^か動^{んどう}したの？」という問^といに、分^わかる^{こた}ように答^{こた}えて
くれれば、何^{なに}をまだ持^もっている^{のか}、少^{すこ}し^わ分^しかる^しかも知^しれませ^んが…。